資料 5

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

健康な心と体
園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

自立心
身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

協同性
友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

道徳性・規範意識の芽生え
友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり 、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

社会生活との関わり
家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

思考力の芽生え
身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

自然との関わり・生命尊重
自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

言葉による伝え合い
先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

豊かな感性と表現
心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」（令和4年3月31日 文部科学省）より

幼保小の架け橋プログラムについて

人は誰もがより良くいきたい幸せになりたいという願いをもち、そうした願いは、幼児期にあっては未分化で具体的なものではありませんが、幼児は幼児なりに自分の意志や意欲をもって日々を生きています。

乳幼児期は心情・意欲・態度や基本的な生活習慣など生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。 また幼児期に入ると、 生活の場や自分を取り巻く他者との関係、興味や関心の対象などが急激に広がり、 依存から自立に向かうようになります。

幼児は園等での生活を通して他者と暮らすことの素晴らしさや生活に必要な基本的なルールを身に付け、友達との遊びを通して、目的をもって物事を進める充実感を味わいます。

幼児はこのような発達の過程に沿って、 その時期にふさわしい豊かな遊びを通して、楽しさから生まれる意欲や好奇心 熱中する集中心、人との関わりの中で生まれた気付きなどを学んでいます。このような日々の充実した園等での生活が、幼児を能動的な学び手に育て、その後の教育の基盤を形成します。

このような幼児期の育ちをその後の学校教育にどうつなげていくのか。私たち、子供の気づきや学び、成長に携わる者は、こうした生きる力の基礎となる乳幼児期の学びの成果を、小学校における各教科等の授業を通した学習へ発展させていかなくてはなりません。

就学前教育から小学校教育へ切れ目のないようにつなげ、就学前の学びを小学校で確実に受け止め更に伸ばし、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもを育成する必要があります。

【幼保小架け橋期のカリキュラムの考え方】

子どもの発達や学びは連続しているものです。就学前教育施設では幼児期にふさわしい教育・保育を行うことが小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮する必要があり、小学校では幼児期における遊びを通した総合的な学びを、各教科等における学習へと円滑に移行できるよう工夫することが大切です。互いの教育内容や指導方法の違いや共通点について理解を深め、それぞれが指導方法を工夫するなど、子どもの発達性を踏まえた教育及び保育の充実を図っていく必要があります。

遊びを通して学ぶ

幼児の自発的な活動としての遊びを中心にした生活を通して体験を重ねられるよう環境を構成し、一人一人に応じた総合的な教育・保育を行う。

円滑な接続

教科等の学習を通して学ぶ

時間割に基づき、定められた目標に向かい、各教科等の内容教科書などの教材を用いて指導する教科学習を中心とした教育を行う。

保育園			幼稚園				小学校				
0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	1年生	2年生	3年	4年	5年生	6年生

就学前教育

生きる力の基礎を培う

遊びを通して行う総合的な指導・保育

小学校教育

生きる力を育てる

教科等の学習を中心として行う指導

【共通の視点から幼児教育と小学校教育がつながる工夫の例】

就学前教育施設での生活や遊び

期待する子供像
架け橋期を通してどのような子供を育てたいか。

遊びや学びのプロセス
期待する子供像の育成に向けて、子供の姿や発達を踏まえ、遊びや学びのプロセスをどのように深めていくのか。

園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等
期待する子供像の育成に向けて、園の活動と小学校の各教科等の教育内容や活動をどのようにつなげていくか。

園指導上の配慮事項（先生の関わり、環境の構成・環境づくり）
遊びや学びのプロセスを深めるため、先生の関わり、環境の構成や環境づくりとしてどのような工夫があるか。

子供の交流
交流を通した学びを深めるため、各園・小学校の年間の活動に、子供同士の交流などをどのように位置付けるのか。

家庭や地域との連携
期待する子供像について家庭や地域と共有し、どのように家庭と連携協働していくのか。

小学校での生活や学習

日の出町での幼保小連携の取組

もうすぐ１年生　～就学前学校体験～

【体験例】
- ○校舎内見学
- ○小学校生活体験（模擬授業や鉛筆の持ち方指導
- ○小学校教員による幼児への話（小学校生活について）
- ○給食の試食

大久野地区　幼保小中交流会

大久野地区の幼稚園・保育園・小中学校における幼児・児童・生徒の現状と課題について交流を行い、子供たちの健全育成を図る。

【参加者】
- ○大久野地区幼稚園教諭
- ○大久野地区保育園保育士
- ○大久野小学校教員
- ○大久野中学校教員

【内容】
- ○小学校授業公開
- ○懇談会
  - ・各園、各校の状況や課題について
  - ・その他情報交換